

日 時 令和8年2月9日(月) 18:30~  
場 所 高砂市役所南庁舎5階 大会議室

出席委員	会 長	田端 和彦	委 員	松下 尚平
	副 会 長	藤村 清春	委 員	加茂 朋之
	委 員	隈本 昌洋	委 員	上田 友美
	委 員	藤田 義一	委 員	小川 博子

欠席委員	委 員	伊東 節子	委 員	加茂 良祐
------	-----	-------	-----	-------

出席事務局職員

健康こども部長	藤田 将太郎
健康こども部健康文化室長	三浦 一郎
教育部教育推進室長	吉金 仙人
教育部学校教育室長	平山 健二
健康こども部健康文化室 文化スポーツ課長	井村 欽也
健康こども部健康文化室 文化スポーツ課主幹	澤田 伸也
健康こども部健康文化室 文化スポーツ課係長	麻 敏浩
文化スポーツ課職員	外3名

協議事項

- 1 開 会
- 2 あ い さ つ
- 3 委員委嘱、自己紹介
- 4 会長、副会長選出
- 5 議 題
  - (1) 令和7年度の取り組み及び令和8年度予定事業について
  - (2) 高砂市文化会館のあり方(案)
- 6 そ の 他
  - (1) 今後のスケジュール
- 7 閉 会

## 令和7年度第2回高砂市文化振興審議会（8. 2. 9）進行表

### ○事務局

開会の前に、本日の資料の確認をお願いします。

本日配布させていただきました資料が、

- ・ 会議次第
- ・ 審議会委員名簿
- ・ 謡曲「高砂」の詞章
- ・ （資料1）令和7年度 of 取組み及び8年度予定事業
- ・ （資料2）各委員からの意見・質問一覧表
- ・ 高砂市文化会館のあり方（案）

以上となっております。皆さまお揃いでしょうか。

### 謡曲「高砂」

#### ○司会

皆さんこんばんは、定刻となりましたので、まず、オープニングとしまして、謡曲「高砂」全員合唱を行いたいと思います。お手元の配布資料に「謡曲高砂」の詞章がありますので、ご覧ください。全員ご起立願います。

（謡曲「高砂」合唱）

#### ○司会

ありがとうございました。ご着席ください。

### 委嘱状交付

#### ○司会

それでは、開会に先立ちまして、市長から委員の皆様方に委嘱状を交付させていただきます。市長よろしく願います。

（各委員に委嘱状交付）

委員の皆さまの任期ですが令和9年9月末までとなっております。

どうぞ、よろしく願います。

## 1. 開会

#### ○司会

ただ今より令和7年度第2回高砂市文化振興審議会を開催いたします。

当審議会の公開についてですが、「高砂市文化振興審議会の運営に関する規程」に基づき、公開とさせていただきます。本日傍聴希望者はございません。

委員の皆様におかれましては、お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。

本日の会議は、委員より欠席の申し出がありましたので、

出席者8名、欠席者2名により、審議会規則第5条第2項の規定により、過半数が出席されているため会議が成立していることをご報告いたします。

## 2. あいさつ

#### ○司会

まず、当審議会の開催にあたりまして、都倉市長より挨拶申し上げます。

#### ○市長

みなさんこんばんは。本日は公私ともに大変お忙しい中、「高砂市文化振興審議会」にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

委員の皆様におかれましては平素から文化行政をはじめ、高砂市政にご協力いただいておりますこ

とを厚くお礼申し上げます。

さて、先ほど、皆様に委員の委嘱をさせていただきました。新たな委員も加わっていただいております。

今後、2年間、委員の皆様には、市の文化興隆のために貴重なご意見を賜りますようお願い申し上げます。

本市では平成25年に高砂市文化振興条例を制定し、平成25年に高砂市文化振興基本方針を策定し、方針に示す『文化を大切にし、ふるさとを愛する人が集うまち高砂』の実現を目指し、10年にわたり様々な施策を進めてまいりました。

こうした取り組みの中、文化の持つ力をより多面的に発揮し、地域の活力向上につなげていくため、現在は、つむぎ つながり つくりだす 文化と共に育つまち 高砂

の実現に向け、文化振興によるまちづくりに関する施策を推進しているところでございます。

本日は、第2次高砂市文化振興基本方針の令和7年度・8年度予定事業についてご審議いただく予定でございます。

また、今後の文化会館のあり方(案)についてもご説明させていただき、皆様のご意見を賜りたいと存じます。

今後も文化会館の基本構想・基本計画の策定に向けまして、本審議会の皆様から幅広いご意見をお伺いしながら、検討を進めてまいりたいと考えております。委員の皆さまには将来を見据えた、より魅力ある文化施設の整備に向け、専門的かつ建設的なご提言を賜りますようお願い申し上げます。委員の皆様の活発なご議論をいただき、忌憚のないご意見を賜りますようお願いを申し上げます。私からの挨拶とさせていただきます。

よろしくお願ひいたします。

○司会

ありがとうございました。

### 3. 自己紹介

○司会

次に、新しい委員の方もおられますので、各委員より自己紹介をお願いいたします。それでは、会長よりお願いいたします。

自己紹介)

次に事務局職員の紹介をさせていただきます。

(事務局自己紹介)

○司会

次に、会議の進行について、ひとこと、お断り申し上げておきます。

当審議会の議事は、会長が議長として進めることとなっておりますが、

この度、新たに委員委嘱をさせていただきましたので、会長、副会長が決定されるまで、事務局が会議の進行を行いますので、よろしくお願ひいたします。

### 4. 審議会会長、副会長の選出

○司会

続きまして、次第の4番目、会長、副会長の選出を行います。

会長、副会長については、審議会規則第4条に「審議会に、会長及び副会長を置き、委員の互選によってこれを定める。」とあります。

皆様の中で互選によって、会長、副会長のご選任をお願いしたいと思っております。

自薦、他薦は問いません。いかがでしょうか。

○委員

事務局に一任します。

○司会

ただ今、事務局に一任の声がありました。それでは、前回と同様に、会長に会長、副会長に委員で、お願いしたいと思います。皆さまいかがでしょうか。ご異論がなければ拍手をもって、ご承認願います。

(出席者拍手)

○司会

会長に就任されました会長より、副会長に就任されました委員は前の席へとお移りいただきます。

○司会

ありがとうございます。

それでは、会長に就任されました会長より一言ごあいさつをいただきます。

○会長

先ほどは拍手をいただきましてありがとうございます。

会長に就任いたしました。改めまして、今晚はよろしくお願いたします。

先ほども申しあげましたが、私自身、この会勉強になっております。いろんな施策がどうやって市を活性化していくのか競争力を持たせるのか大変興味深いことです。あの一、私、こういった会議では毎回申し上げているんですが、発言をお願いしたいと思います。忌憚のないご意見をどんどん、いただきたいと思います。円滑な執行に努めますが、皆さまからの発言がないと進行ができませんので、学校の先生をやっておりますと、ついつい人を当ててしまいますので、もし、発言が無ければ当てますのでそのつもりでよろしくお願いいたします。

○司会

ありがとうございました。

○司会

続きまして、副会長に就任されました委員より一言ごあいさつをいただきます。

○委員

はい、文化ってカルチャーと言いますが心を耕すということなんですけど、世相を見ているとプーチンさんやトランプさんみたいに力で押す世界になっておりますが、そうじゃなくて文化は潤いのある世界、やさしい世界、やさしい高砂市、やさしい地域を作っていけたらなと思っています。

一緒に頑張っていきたいと思います。

よろしくお願いいたします。

○司会

ありがとうございました。

## 5. 議 題

○司会

それでは、議題へと移りたいと存じます。

会議録作成のため、発言の際はマイクをご利用いただき、お名前を名乗っていただきますよう、お願いいたします。

今後の議事進行は、審議会規則第5条第1項により会長にお譲りしたいと存じます。会長よろしくお願いたします。

○会長

それでは、次第により進めさせていただきます。  
議題の(1)令和7年度 of 取組み及び令和8年度予定事業について、事務局から説明願います。

#### ○事務局

事務局でございます。

議題の(1)令和7年度 of 取組み及び令和8年度予定事業につきまして、ご説明いたします。

資料1の「第2次高砂市文化振興基本方針 令和7年度・8年度予定事業」、そして資料2、こちらは事前に委員の皆様からご意見、ご質問があった内容について、各課から回答をまとめております。

それでは、資料1をお願いします。主なもの事業を順番にご説明いたします。

まず、1ページ、111-01、「高砂学」につきまして、高砂の歴史や文化について学ぶ機会を設けることを目的として取り組んでおります。

今年度は、例年の高砂学に加え、既に7月6日(日)に藤村委員にご紹介いただき、「今日(こんにち)の「高砂」の基礎を築いた二人の武将～池田輝政と本多忠政～」というテーマで、高砂市観光交流ビューローの2名の方を講師に招き、講座をしていただきました。この講座は、申込み開始時から反響が多く、また若い方や遠方の方の参加もあり、有意義な講座となりました。

令和8年3月1日(日)にも講座編を開催する予定で、講座のテーマは、「高砂生まれの宮本武蔵 その人物と業績～武人、芸術家、町割り、庭園設計者、思想家～敗れた高砂の生家の再興を期す」です。この審議会の委員である藤村委員と宮本武蔵が残した『野田派二天一流』の武術の継承に努めている高砂二天会の方を講師に講座を開催する予定です。今年度の講座編は、武将をテーマにしたことで人気がありましたので、来年度も多くの方に参加いただけるよう講座を計画していきたいと考えます。

次に111-07「高砂市美術展」についてです。昨日展覧会が終わったところで、今年度も多くの方にご来場、そして作品出品をいただきました。今年度は、初めてインターネット申込みを導入し、申込み件数 239 件のうち 102 件がインターネット申込みでした。新たな制度の導入でしたが、大きな混乱もなく多くの方々インターネット申込みを利用してくださり、市としても業務の効率化につなげることができました。ただ、美術展については、出品者や来場者の高齢化が課題となっています。次に2ページ、111-13「病院・福祉施設の活用」です。こちらの事業については、今年度は9月に入院患者、外来の方、お見舞いの方向けに、文化スポーツ課主催の院内コンサートを実施しました。出演者は以前市役所のホールコンサートに出演いただいた、コーラスグループの方で、大勢の患者さんが市民病院的ロビーに集まり、コーラスの美しい歌声を楽しんでいただきました。市民病院からも緩和ケアの病棟にコーラスグループを呼びたいとの声をいただきました。

次に3ページ、111-23 市役所ロビーコンサートの開催について、今年度は議会の月を除いて12回開催予定でしたが、会場の都合で、全 10 回の開催となりました。この2月も、出演者も決まっていますが、選挙の会場となったため中止しております。

また、分庁舎にあるピアノの活用については、11 月から毎週水曜日にストリートピアノとして開放しております。

次に11ページ、211-20 東播磨文化団体連合会事業です。令和8年度は東はりま大茶会を高砂市で開催する予定です。高砂市茶華道協会の皆さまの協力を得て、高砂市らしさのあふれる茶会を開催したいと思います。

次に 23 ページ、321-5 文化賞、文化功労賞についてです。現在は、これまでの功績や継続的な文化活動を評価する文化賞と文化功労賞の2つの賞があり、毎年数名の方を表彰しております。文化賞については、令和5年度までは、文化奨励賞として次世代の文化を支える世代を顕彰し、今後の文化活動を奨励することを目的に昭和63年から表彰を行ってききましたが、制度の継続とともに受賞者の年齢が次第にあがり、当初の想定の次世代の文化を支える世代への表彰という趣旨と乖離していたため、令和6年度に、名称を文化賞に変更しております。このため、若い世代を対象とした表彰がない状況となっていることから、令和8年度から、30歳以下の若者を対象とした表彰制度を創設し、若い世代の意欲的な取り組みを積極的に後押ししたいと考えております。名称は、高砂市青春文化賞とし、表彰する前年の1月1日から12月31日までの期間に、公募展やコンクールにおいて入賞された方を公募し、選考委員会で審査し、市長から表彰を送る予定です。

説明は以上です、よろしくお願いします。

○会長

説明は終わりました。

○会長

はい。

ありがとうございました。

今、ご説明をいただいたわけですが、何かご質問ご意見があれば承ります。事前に各委員からご質問、ご意見頂いているわけなんですけれども、ここでご回答を事務局からいただいております。ご回答にちょっと満足がいかないとか、これはよかったとかご質問でも結構ですのでご意見ご質問がある方は挙手とお名前を名乗って頂いてご発言を賜りたいと思います。よろしくお願いいたします。

○委員

じゃ事務局の説明で美術展であらかじめ、写真撮影が OK!ということでそれに耐えられる作品をという格好で、よかったかなと思います。いまの時代、やっぱりSNSで拡散するのがいい。そういう面ではその耐えられるどちらかと言うと取り組みをしておいて、拡散していったら PR になるし、いいかなと思いました。

2点目なんですけど、ホールコンサートの司会をさせてもらっているんですけど、そのピアノがね、水曜日の一時間だけだとちょっと幅が狭すぎて、もうちょっと余裕を持ってもらわないと、一時間だけで来れるという人がまず、いないと思います。その日の午後とか、12時から16時までとか少し、時間に幅を持たすことはできないでしょうか？という依頼です。

○会長

ありがとうございました。

○事務局

ロビーコンサートの時間なんですけど、あの会場の隣に会議室がありまして、会議をされているときは音を出すのはダメということで、昼休みの時間だけになっております。

一応、分庁舎でストリートピアノとして、開放しておりますが、文化会館東館のほうでもピアノをストリートピアノとして開放しておりますので、もしよければ、そちらも利用していただければなという風に思っております。

○委員

文化会館は何時から何時？

○事務局

文化会館の方は土曜日と日曜日の朝の10時～午後8時までやっています。  
多目的5・6の貸館がない時にストリートピアノとして利用できます。

○委員

じゃあ、そこは時間が長くとられてるんやね？

○事務局

はい

○委員

はい、わかりました。そこらへんは、市民の人が見てわかるようになってるんやね？

○事務局

はい

○会長

ほかに何かありますか？

○委員

美術展の最終日に行きましたが、先ほどの説明の中にも「高齢化」という言葉があったんですが、だいたい、どれくらいの人が出展されているのかな、どうして若い年齢層の方が参加、美術展を見に行かないのかな、というところも昨日見に行った時にも、確かに見に来られている方は年配の方たちばかりでした。で、あの自分の息子が芸大の方に行っていて、「出してみたら？」「う～ん」っていう、返事をしたんです。なんかそういう感じで魅力がないのかなあと感じを受けているのかなと思いつつ、自分の作品を人にみてもらうのは、いい機会じゃないのかなというところで、来年は出してみたらと言ってみましたが、どれくらい年齢層の方が出されているのか、気になったので教えてください。

○委員

出展者についての割合、わかれば、見に来られている方の年齢層、若者が出展しない要因について3点についてお願いします。

○事務局

年齢層について正式なものについては把握していないが50代以上、60代、70代の方が中心という形になっていると思います。一応、若い人にも出展してもらえるように、こちらからは高校に声をかけたり、プログラムの表紙の写真を高砂南高校の生徒に依頼するなどして、若い方に興味をもってもらえるよう取り組んでいます。

また、若い人にも気軽に応募していただけるように、今まで紙の出品申し込みだけだったのをネットでも申し込んでいただけるよう、はじめたところでございます。

昨年度から全国の方に作品を見ていただけるよう、公募サイトというすごく大きなサイトにも掲載させていただいております。高砂市の美術展では大賞を取られた翌年にプチ個展のようなものができるよと他市にはない魅力も掲載はさせていただいております。運営側としては若年層の方の目に触れるよう努力は少しずつしているところでございます。

○委員

ありがとうございました。色々な工夫をされていることがよくわかりました。

自分の息子にも、なぜ「う～ん」って言ったのかももう少し深掘りして聞いてみます。それがまた、発表して反映していただけたらなと思っています。

○会長

ありがとうございました。外に何かありませんか？

○委員

今の件に関しまして、出展者の資格、範囲はどんなものでしょうか？

○事務局

高校生以上で市内、市外は問いません。

○委員

どこの高校に声をかけてますか？

○事務局

高砂市内、加古川など近隣市、あと、美術に強い明石の高校、小野高校。又、県内にある大学にも一

通り、申込書などを送付しています。

○委員

高校の教師をしていた関係で、教育研究会の美術部会に連絡するのがいいと思います。そしたら、各学校の美術部で活動されている方に必ず連絡がいくと思います。学校に連絡した場合、美術の先生がいない学校もありますし、生徒にどれくらい伝わるかというところがあります。それが定着すると、高砂で市展があるということで出されると思います。香寺高校に努めていて毎年全国大会に出品している実力の高い学校なのですが、金曜日に美術展に行かせていただいて作品を拝見しましたが、大人の方の作品のレベルがかなり高く、年齢を分けるのも一つの手かなと思います。

○事務局

教育研究会の美術部会に次年度は必ず連絡したいと思います。ありがとうございました。

○委員

私も、播磨町の書初めの審査に行った際に、委員はきれいな字を書いてください。私(審査委員長)は将来伸びる子の書を選びたい、と言われていたのを思い出しました。若い子が通るような賞を設けたり、そういう視点で審査をしてもいいのかなと思いました。実際、高齢者の方がキャリアを積まれて作品が上手で、若い人が出しづらいところもあるのではないかなと思うので、若い人がチャレンジできる賞、部門を作ってもいいのではないかなと思う。

○事務局

貴重な意見をありがとうございました。新な賞については美術協会と相談し、検討させていただきます。

○委員

高砂市民でありながら、これだけのイベントを開催されていることに全く知らずに今まで来てしまったので、見に来たらよかったなと思っています。先ほどの、ストリートピアノの件ですが、水曜日だけとなっていますが、他の曜日は難しいのでしょうか

○事務局

ストリートピアノは11月から始めたところで、水曜日は研修などが多い曜日で、研修だときっちり、お昼休みが確保されて前とか後ろにずれ込むことがないので水曜日にしました。又、要望が多いようでしたら他の曜日も検討していきたいと考えています。

○委員

ありがとうございます。

○会長

よろしいですか。それでは、私から、書き方の問題ですが、枝番の使い方なのですが、令和6年度事業の評価、前回の委員会で評価いただいた分と見比べていたんですが、211-11というのが今は、後援申請の案内、承認になっていますけども、令和6年度事業の評価の時は211-11は、障害者交流事業補助金となっていて、これについては補助金の申請を令和7年4月より補助対象事業を拡大すると書いてある。これが抜けてるために枝番が全部ずれる。逆にと言ったら申し訳ないですが、16ページの222-04は、前の資料を見ると自然観察会となっているが、16ページの222-04は廃止になっている。廃止は廃止で構いません。事業を継続することが目的ではありませんので目的を達したら廃止でも構いませんが、統制が取れていないというか、枝番のつけ方がずれているので前の資料と見比べたときに評価に応じて事業が変わったのか

どうか、中々見づらかったというのがあって、大変申し訳ないが中身というよりも、表の作り方の問題なので、確認をしたい。

いかがでしょう。

令和6年度の事業評価をしていただいた結果が、本来なら、令和7年度の事業にどう、影響したかを本来見たいわけですから、一応、両方見比べながらチェックをしてたんですが、枝番のところずれがあって、なぜって、感じで、ちょっと気になったので伺い確認します。

○事務局

16ページの方は純粋に番号がずれてしまったという人為的ミスだと思われます。

○会長

障害者交流事業は廃止ですか。

○事務局

障害者交流事業は廃止です。

○会長

では、廃止と書かずにそのまま行っちゃったということですね。

○事務局

そういうことです。

○会長

16ページの222-04 令和6年度で廃止と書いてあって、令和6年度は事業をやってないわけですね。

○事務局

222-03と222-04の間で、当初、別の事業が入っていたんですが、それを廃止とわかるように廃止としています。

○会長

ルールがわかりにくいので、わかりやすくしてください。

他に何かお気づきのところはないでしょうか。

だいたいよろしいでしょうか。

○委員

はい、各委員からの意見質問の方なんですけれど、111-13番のところですが、病院福祉施設の活用といふことなんですけど、その内容を見ますと、各種文化関係団体等の慰問の調整をするという風になってますが、これは何も文化スポーツ課が病院コンサートをするのではなく、色々な団体の慰問の調整をするという意味合いだと思うんです。実は、これ質問の一覧表になるんですけども、質問の一覧表の2ページ、の11番の高砂合唱連盟では各団、施設等から依頼を直接受け、自主的にボランティア活動をしています。市は通していませんと書かれていることとリンクするんですけども、要するに病院コンサートを文化スポーツ課で調整するという文言の書き方をしてあるので、このままだったら文化スポーツ課が主催する事業ではないということですね。事業の内容からするとね。そういった意味では合唱連盟などは行きやすい。委員からは活動されていると思うので、実際はもっと、活動されているという理解は必要かなと思いました。

○会長

ご回答の内容と実答がちょっと違うのではないかとということなんですけど

○事務局

文化団体の方から何か、こういった慰問演奏をしたいとか施設に行って音楽を聞いてもらいたいという、要望があれば、それに応じてこちらが間に入るなどの調整をするという意味です。今後もそのように要望があれば、お答えしていきたいなという風に考えております。

○委員

そういうことがあれば、相談してもいいということやね。

質問表の2ページの8番の高砂ゆかりの人物の顕彰ということで、高砂町の偉人については万灯祭、アイポット等でパネル展を開いています。3月からは図書館で実施します。高砂市の偉人をもっと選定し、もっとPRをしてほしいということです。今回も高砂学をさせていただくんですけど、幅広く高砂のPRをかねて、高砂の偉人を10人ほど、掘り下げてPRすることが高砂をPRすることになるのではないのでしょうか。

○事務局

高砂学については、色んなテーマに沿ってやっておりますが、その中に高砂町の偉人とかそういったものを組み入れながらというのは可能ですし、パネル展でありますと違う講演の時にパネル展を開催することも可能ですのでいろんな方法で高砂学を広げていければなと思っています。

○会長

テーマで広げることではできるとの事だったので、具体的にどういう風に広げられるのかということはおそらく、事務局だけでは判断が難しければまた、ご相談いただいてせっかくの機会を活用していただきたいと思います。

○会長

ほか、何かご質問はありますか。

○委員

先ほどの高砂の偉人の話があったんですけど、小学校4年生、3年生で郷土の偉人の学習を副読本を使って学習する機会がありますので、こういうのを学校にアナウンスしてタイミングが合えば、例えば図書館でこんなのやってるよというので、それをチラシか何かでアナウンスできるのであればもしかしたら、興味のある子は行ったりするかもしれないし、どこかで高砂市の偉人社会科の副読本には工楽松右衛門が郷土の偉人として載ってますので、自分が副読本で見た人物の名前があれば、興味がわくのではないかと、そういうアナウンスの仕方もいいのではないかと思います。

○会長

ありがとうございました。いかがでしょうか。学校への案内とか

○事務局

貴重なご意見、ありがとうございます。子供たちに向けて、情報連絡ツールを活用し周知していきたいと思います。

○会長

学校へのアナウンスはたくさん色んなアナウンスがあって、どれが大事でどれが大事じゃないか中々、わかりにくいという申し訳ないんですが、ほんとたくさんの通知があって、学校の先生方も大変お忙しい中、取捨選択が難しいと思うんですが、こういった形で郷土への関心を子供たちが持ってくれるようにひきつけていくのか、これは、シティープロモーションの観点でもあり、高砂市の大きな問題でもある人口流出を防ぐ、また、出た後に戻ってくれるかもしれないというチャンスを広げるためにも、非常に重要なことだと思っておりますので今、検討しますとおっしゃいましたが、検討するだけではなく、積極的にどうすれば響くかということもしっかり考えていただきたいと思います。

○委員

情報連絡ツールは多分、スクリレのことだと思うんですけど、スクリレは行政からダイレクトに直接保護者の方へ行くので、学校を介さずに行くものがあるのでそういう学習とか子供たちの学びにつながるものだったら先生方はそれを見てもこんなものがあるんやなあと子供たちに言ったり、保護者の方もそういう風なことに興味をもって頂けるかなあと思います。そういう活用をされたらなと思います。

#### ○会長

ありがとうございました。次に何か確認事項などありますか。

ご提案をたくさんいただきまして、助かりました。

こういう場でのご提案というのは行政にとって非常に大事なことでございまして、ありがとうございました。

それでは、次の議題に移りたいと思います。

議題の(2)の方でございまして。皆さんもよく、ご承知かもしれませんが、高砂市文化会館のあり方(案)についてということで資料をお配りしております。

それにつきまして、事務局の方からご説明をお願いします。

#### ○事務局

「高砂市文化会館のあり方」ということで、新たな委員の方もいらっしゃいますので、昨年からの事業の経過を少しだけご説明申し上げます。高砂市文化会館は昨年、市民病院の移転候補地に選定され、施設の今後については、移転による建替えの計画をすすめることとなりました。昨年、8月の当審議会におきまして、文化会館の基本構想策定に向け、現状の課題と方向性をまとめた、「高砂市文化会館のあり方」(案)について説明させていただきました。この後説明する中でも出てまいります。その際には、単なる貸館ではなく使う側の立場や意見を踏まえて考えてほしいなど、さまざまなご意見をいただきました。

そして9月には文化団体の皆様に、施設の利用状況等についてアンケートを行い、現状の貸館利用の状況を把握するとともに、新しい施設に何を求めるのかなどお聞きしております。

今から説明させていただく「あり方」は、アンケート等で頂戴したご意見も踏まえ、庁内で検討を重ねまして、データ等の追加とともに施設の建設候補地や規模等に関する基本的事項や方向性など整理し、考え方をまとめております。

それでは、資料(あり方(案))の方をお願いします。

まずは、目次のところでご説明いたしますと、前回説明した「あり方」においては、背景と目的、現状と課題、そして今後の方向性といったところまで整理されておりました。この度、肉付け及び、見直した主な内容は、第4章、第5章、第6章になっております。

それでは、1ページをご覧ください。

こちらは、「背景と目的」ですので前回説明時から大きく変わることはございません。「文化振興によるまちづくり」を基本理念として設置された文化会館は、老朽化が進み、時代とともに、「文化」自体が大きく変わってきております。これらの状況を踏まえ、延べ床面積の縮減を目指すとともに、単なる貸館ではなく文化芸術活動の拠点として、将来にわたって持続可能な施設を目指すものとして、「あり方」をまとめたというものです。

「また」から始まる最後の段落がこの度追加したものです。前回説明した「あり方」には移転の考え方や表現はありませんでしたので、そこに関してはこの「あり方」の最初の段階で示しておくべきという意図です。

つづいて2ページ、3ページをご覧ください。

社会情勢の変化と対応ということで、肉付けした部分です。まる①として人口推移、人口推計、出生数のデータとともに少し考察も入れてあります。そして、まる②「情報通信技術の発達とライフスタイルの多様化」ということでございまして、今後対応が必要なこととして、デジタル技術の発展とともに文化芸術の表現も広がる中、若者ニーズに対応できる施設環境を検討していくということです。その下③については、まだ、この「新型コロナウイルス」の影響に関して言う必要があるのかという部分もございまして、まあこのことが、文化芸術活動や施設に与えた影響は大きかったことは間違いありません。これによって働き方や生活も大きく変わり「新たな価値観」が生まれているということも踏まえ、施設整備や運営手法について検討が必要だということです。まとめて言いますと、まる②で

進化するデジタルへの対応、まる③で新たな価値観への対応というものです。

そして次のページ、4 ページ

まる④のその他です。ここでは、移転建替えによる空白期間の代替施策の必要性と、今後も物価高の影響による建設コストの増大が予想される中、市の財政にもできるだけ影響の少ない実現可能な基本構想策定の必要性を述べています。実現性の少ない理想を掲げるのではなく、実現可能な、ちよっと適切かどうかわかりませんが「身の丈に合った」、基本構想にする必要があるということです。

それでは次の 5 ページから 7 ページ。

ここでは、第 2 章現状と課題ということで、既存の「あり方」でもございましたが、本館と東館に分けて明記しています。7 ページの施設カルテは、敷地面積や用途区域も記載されていますので、参考として追加しました。見せ方としてそれぞれの施設の中に入れてしまうという方法もありましたが、このカルテ自体がすでにオープンになっておりますので、形は変えずにそのまま載せております。

つづいて 8 ページをお願いします。

第 3 章として利用状況等でございます。前回の「あり方」でも記載しておりましたが、本館、東館の利用人数の推移、主要な施設の利用状況として平成 30 年度と令和 6 年度を対比させています。そして、10 ページ、11 ページには大ホール、中ホールの利用実績を載せています。

続いて 12 ページをお願いします。

この第 4 章においては、審議会、文化関係団体等ということで、昨年 8 月、9 月にいただいた文化振興審議会、文化連盟加盟団体からの一部を記載しております。参考として文化振興審議会の設置根拠や文化連盟の説明と会員数推移も入れております。

つづいて 13 ページ。

「文化連盟加盟団体へのアンケート」です。9 月のご意見をいただいたときに実施したアンケートの結果をグラフとともに載せております。内容は現状で関係団体の皆様が貸館利用も含めてどういった使い方をされているのか、また新施設には何を望むのかを聞いております。

そして、14 ページ、15 ページをお願いします。

こちらには、令和 4 年 3 月に策定しました第 2 次高砂市文化振興基本方針のときの市民アンケートを抜粋して載せております。来年度、基本構想を策定する中では、当然、アンケートは実施するんですけども、その時に、ここからどう変化しているかという、比較できる数値にもなりますし、この時はこのような考えであったのかと改めて見ていただいてもいいのかなと思います。

そして、16 ページ、第 5 章基本的事項です。

まずは、1、目的、必要性の考え方です。「現文化会館の設置目的を継続します」ということで、文化会館条例第 1 条「市民の文化教養の向上及び文化交流の促進をはかり、もって市民の福祉の増進に寄与するため、高砂市文化会館を設置する」というものです。

ですので、建替える施設は、今の文化会館と同じ目的であって目指すところは、文化振興条例上の基本理念である「文化振興によるまちづくり」です。それを今とは違う新たな場所で、新しい施設で実施するというものですので、新たな目的を持たせる訳ではございません。

そして、文化会館の必要性としましては、単なる貸館だけではなく、多様な文化芸術活動ニーズに対応できる施設が必要ということです。少し表現を変えらるるとするならば、時代とともに、「文化」というもの自体が変わってきている、その「文化」に応じた施設整備をする必要があるということです。

そして、基本コンセプトとして、○印の 2 つを掲げました。まず一つ目の、○さまざまな人が集い、笑顔が生まれる施設」というのは、この先、基本構想においてもコンセプトとなり得るフレーズをイメージして、既存の「あり方」から引用できることばを絞り込んで設定しております。

そして、二つ目。○文化芸術を支える拠点として、市民の文化芸術における創造活動・発表を行う交流の場、文化を活用した若者の居場所やこどもから高齢者、障がい者など誰もが集える憩いの場としての活用を目指す。としました。

この表現に関する説明としますと、新たな施設は「文化芸術を支える拠点施設」とするものの、現代文化の流れに応じた文化交流とともに日常的に誰もが集える場所を目指すなど、「文化」だけではない他の分野ともつながれる可能性を持った施設を目指すというものです。結果的にそこを目指すことが、将来にわたって持続可能な施設に繋がっていくと考えております。

次に、17 ページをお願いします。

規模、機能の考え方です。

新しい施設に必要な規模、機能については、敷地の形状や財源を踏まえながら検討し、基本構想に

反映します。ホールの規模については、現状の利用実績、建設コストの抑制など勘案し、市民ニーズを考慮した座席数となるよう検討を進めます。

機能については、例えば、ホールは固定席ではなく、可動式の座席となるように技術的な工夫で、有効なスペースを創り、多目的なホールにするといった、この言い方は正しいかどうか分かりませんが、無駄は省きながら将来にわたって持続可能な施設を目指します。

下のイメージ図は、文化芸術を支える拠点施設において、多目的ホールや文化芸術活動等のスペース、音楽、演劇向けの設備を備えることで、文化振興、文化交流、他分野との連携による活力向上につなげていきます。

そして、一番下には近隣施設のホール規模や面積などの情報を表にしております。

つづいて 18 ページをお願いします。

3 代替施設・代替施策の考え方です。

ここに記載してますとおり、文化会館の建替えを速やかに進めたとしても、4 年程度の空白期間が生じます。当然この期間においても、文化芸術活動は継続されており、その期間の活動場所の確保に遊休施設の活用を検討しますということです。

その下、4 建設候補地の考え方です。

この先の、施設整備にあたって、非常に重要な要素となる部分ですけれども、市有地を優先としつつ、民地も含めて検討するとして、この段階においては、広い範囲で考えることとしました。具体的な候補地については基本構想において絞られていくものと考えております。そのため、この「あり方」においては候補地の選定のポイントとなる項目だけを明記するにとどめております。

つづいて 19 ページ。

事業手法、財源低減方策の考え方です。

一般的な事業スキームのながれも参考となるよう、上段に載せ、説明を入れてあります。一般的な流れとしましては、構想に 1 年、計画に 1 年、基本設計、実施設計においてもそれぞれ 1 年、そして工事には 2 年から 3 年といった流れです。文章の 3 行目に出てくる PPP 手法というのは、ご存じの方も、そうでない方もいらっしゃるかと思いますので、少しだけ説明するとしますと、パブリック、プライベート、パートナーシップ、この頭文字をとって PPP と呼ばれておりまして、公共施設の整備・運営において行政と民間企業が連携し民間の資金やノウハウを活用して効率化や質の向上を目指す仕組みの総称です。「官民連携」というほうがイメージしやすいでしょうか。この官民連携という包括的な概念の中に PFI という、手法的な民間資金活用や指定管理者制度が含まれます。P はプライベート、F はファイナンス、I はイニシアチブの頭文字をとったもので、PFI 法という、正式名称は「民間資金等の活用による公共施設等の整備等に関する法律」というんですが、その具体的な手法が、下段で示されております、DB 方式、DBO 方式といったものになります。D はデザイン、B はビルド、O はオペレート、O はオペレートの頭文字で、そういった手法によっては事業コストを抑えられたり、事業期間の短縮が見込めるといったものです。

最後に 20 ページの第 6 章 基本構想策定に向けてです。

1 の方向性として、これまでの内容と重複する部分はありますが、改めて構想策定に向けた方向性をまとめました。「文化芸術活動を支える拠点」として、単なる貸館だけではない、誰もが集える憩いの場を目指し、さまざまな課題整理を図りながら基本構想を策定します。というものです。

その下、2 の施設整備にあたっての考え方としましては、

上段 1 の方向性としてまとめた施設にしていくためには、どういう整備をしていくのかの考えをまとめています。

最終的にはこれらの項目が最初の背景・目的のところでお示した「文化資源を未来につなぐ文化拠点として、将来にわたって持続可能な施設」につながっていくものと考えています。

次の 21 ページ、基本構想のスケジュールです。

括弧で予定と記載してますとおり、あくまでも、まだ予定なんですけれども、スケジュールです。

例えば市民アンケートの結果がまとまり、構想の(骨子)となるものが 9 月ごろに出来上がってくるのかですね、おおよそ何月ぐらいにはどのようなことができてくるのかを明記しております。

下段には、基本構想ではどういうものが示されていくのかをイメージ(案)として載せております。

最後に 22 ページには、検討体制や事業全体のスケジュール(案)を載せております。この事業スケジュールについては、もちろん記載もしておりますが(案)であり、先ほどの事業手法のところでも申

しましたように、一般的な事業スキームを基に設定しているスケジュールですので、一つの目安のように考えてくださればよいと思います。

あと、長くなってしまって申し訳ないんですが、先ほど 21 ページで説明しました基本構想のスケジュールは当審議会の開催スケジュールにも大きく関わってまいります。

例年ですと、この審議会の開催は 2 回、です。当然、文化振興基本方針に関する事項としてご審議いただくよう、第 1 回目においては、文化振興基本方針で設定される施策に対する前年度の実績報告とともにその年度の取組み予定に対するご意見などを伺っております。そして第 2 回目において、その年度の取組み状況とともに来年度以降の取組み予定についてご意見を伺うというような流れでございます。通常ですとこの 2 回なんですけど、来年度はこの 2 回に加え、文化会館の基本構想策定のためにご審議いただく回として、あと 2 回分、合計 4 回の開催を予定しております。

この基本構想のスケジュールによって、当審議会がどういう風に動くのかということ、例えば、21 ページのこの 6 月から 3 月までの流れに合わせてその 4 回を設定するとしますと、、、これはまだ、田端会長とも調整ができておりませんので、あくまで事務局が考える(案)としてお聞きください。まず 6 月の第 1 回目で、当審議会に基本構想についてご意見を伺います。そして第 2 回目、9 月から 10 月ごろになろうかと思えます、アンケート等の結果をまとめ、骨子にしていく段階でご審議いただきます。そして第 3 回目、12 月ごろでしょうか、骨子を素案とし、パブコメするための素案について、この内容でパブコメしますよということで、ご審議いただきます。そして最後の第 4 回目、2 月か 3 月頃で、実施しましたパブコメを反映させた構想(案)を出していただく、というようなことで回数を想定しております。

#### ○会長

ありがとうございました。今、高砂市文化会館のあり方についての検討会の内容の報告ということですが、ご質問やご意見があらうかと思えますが、今回、ご説明がございました通り、こういう施設を作るにあたってどういう風なコンセプトがいるのかということを作り上げていかなきゃいけないわけですが、考え方として、文化だけではなく、市民活動の場でもあるということもございまして、そういう幅広く皆さんの意見を積み上げてコンセプトを作りたいということでございまして、ご意見含めて皆さんから賜りたいと思えます。

いかがでしょうか。

#### ○委員

多目的というところが、年間の稼働率を考えたときに大ホールに代わる施設というところの稼働率が問題になってくると思えますが、多目的といった場合にこれが中途半端にならないようにしないと利用者がほんとにいなくなってしまう危険性があると思えます。

時代の先取りも含めて、今から 10 年後はこうなるだろうと織り込みながら、一番大事なのは稼働率を上げるためにどうしたらいいかということで、中ホールの座席が出たり、入ったりするのを想定されているかもしれませんが、あれは、僕が思うに中途半端な施設で、例えば展示をされますよね。でも、展示をするのにあんなに天井の高い施設はいらないと思えます。

だから、天井の高さは舞台をされることに重きを置いて、舞台をされる方にとって何が大事か考えていくほうが実際に利用者は増えると思うんです。

例えば、私は音楽もやりますが、演劇関係をしたこともありますし、結局、この会議室くらい広さがあるって鏡があればダンスもできると思うんです。演劇で、声を張らないといけない。

声が小さいからもっと声を張りなさいと言われた時、この部屋じゃ練習できないです。例えばダンスでフォーメーション組んだ時にこの部屋の中でしか見れない。だったら、ホールの広さがあつたほうが練習場所としてはすごくいい。これは、音楽関係の人もみんな同意してもらえますと思えます。大阪フィルハーモニー交響楽団の練習場、昔はとんでもないところで練習していたのをフィルハーモニー会館というところを建てて、実はそこは演奏会もできる会場なんです。で、客席数も少ないですけど、100~200と少ないんですけど、コンサートもできるようなところで練習する。要するに、本番で実際に演奏するのに近い形で練習するためのホールを作っちゃって、やっと、これはいいのができたなあと、市内の団体だけでなく、市外からも来るかもしれない。

市内では、今から中学校の部活動が地域化になったら、夕方、夜の時間帯に子供たちがそこで練習できるかもしれない。

稼働率で決定的な問題は平日の利用が少ない。土日はそこそこ回っていると思います。じゃ、少なくとも、平日の夜、市民が使える施設ってということも念頭に置いて構想も立てないと結局、中途半端でだれも使わない施設になってしまうと市民のためにもよくないし、せっかく新しいホールが出来たら近隣の市町の皆さんもどんな施設ができたか、近隣ではアクリエ姫路以外新しい施設がないので、そこがどういう形で使えるか、実際の発表の場所でも使える、練習場所でも使える。平日に一般の人は、高砂施設で練習されてますし、平日の夜にも使えるようなそういう会場を作ることによって稼働率は高くなっていくことは間違いないですし、本当に中途半端なものは絶対作ってほしくないというのがあって、前から民間と協力してという話がある意味いいと思いますが、もう一つ、大学、建設系の大学の中で、将来地域の芸術について、研究されているところもきっとあると思うので、そういうところとも接触して多角的に今から求められる文化施設とはどういうものかということも充分時間をかけて考えていただけたらいいんじゃないかと思います。計画がすぐ後ろ倒しになって、解体工事が済んでから、建設が始まるというスケジュールはかなり、痛いんですけど、どうしても新しい敷地の関係でこうなるんでしたら、その期間を利用して、ホントに魅力的な使いやすい施設を検討していけたらいいものができるのではないかと考えています。

#### ○会長

大変、貴重なご意見、ありがとうございました。

展示会と舞台芸術は全く違うもの それは注意してほしいです。3つくらいあって、一つ目は多目的とはどういうことか、2点目は使う人が、稼働率を上げるためには使う人はどの時間帯を使うのか、どのときを使うのか注意したほうがいい 学校クラブの地域化によって、夕刻以降使われることが多くなるのではないかと、そういったことをしっかりと稼働率を上げるためにニーズを見なきゃいけない。

3点目は設計するにあたって、将来を見越して、専門的な知見がいるということですよ。

ほか、いかがでしょうか

#### ○委員

22ページ 基本構想の段階で場所は決まっていますか。

#### ○事務局

基本構想の段階では場所は確定ではありません。

基本構想の中で候補地がいくつか出てきて、基本計画の中で最終的な建設予定地が決まってくるという風に考えています。

#### ○委員

そうすると、基本計画あたりで出てくる。神戸新聞に発表されて、市長が文化会館の候補地を速やかに発表しますと書いてあったので、このスケジュールで速やかにという回答に当たるのかなと思ったので。

で、場所が決まることでいろんなことが変わってくるので、結構、今までも色々聞かせてもらったけど、場所選定は難しいとは思いますが。

わかりました。

これだと、工事含めて長い期間になると思います。代替案を考えていく必要があると思います。

#### ○会長

基本構想にあった場所を選ぶのか、それとも委員が疑念を持たれてる、並行して考えないと時間がかかる どちらですか？

基本構想ができていてこれにふさわしい場所を選ぶんだということでしたら一つのロジックだと思うんですけど、おそらく真打をどこか選ぶのに時間がかかりそうだから、まずは基本構想この辺り、考えるのに非常に大切なところなんです。

#### ○事務局

基本構想の中で、もちろん候補地というところが、いくつか、例えば3つくらい候補地が出てきて、

基本計画の中で比較検討しながら一つに絞られていくというようなイメージ、先ずはそこ、基本構想で建設予定地、候補地の考え方ですけど、建設候補地によってどういう施設になるのかすごく影響される部分ですけど、考え方として、候補地によって必要な規模であるとか、目的があるとかいう考え方は逆だと思います。必要な施設があってその施設を建てるにはどういったところがふさわしいかというところを考えるべきだと理解しています。

○会長

その答えで問題はないと思います。稼働率を上げるために、小規模でもいいから駅前がいいんじゃないかとか

おっしゃったように、基本構想ありきが委員のお考えだということでもよろしいでしょうか。

○委員

はい

○会長

ほか、いかがでしょうか。

○委員

前回、7月 30%減で考えていくような案が出ていたと思いますが、その時点で、この審議会の中で30%減がありきなのかどうか、内容をよく考えて思案お願いしたいという話があったが、私自身、30%減ありきで考えているのかなというのがどうしても引っかかってくるところで、そういう施設の想像がつかない。資料を送ってもらったものをよく読んだら、やっぱり、1ページ目に30%減目標とした施設整備。

費用のことは予算のことがあるので致し方ないと考えながら読ませていただいたが、人口減少という形で2ページ目の表があり、やはり、こう、減らそうというのが前提なのかなと思ってしまいます。17ページ見ていただいたときに、高砂市文化会館の敷地面積と延床面積、近隣の各文化施設の面積と延床面積が書かれているんですが、これで30%減らすという基準がわからなくなって、実は、それぞれの市の人口を調べました。人口比率を見ると加古川市民会館なんかは狭いんです。ただ、加古川はお金もありますし、他に施設がたくさんあります。

高砂市は文化会館一つだけですので、こういった根拠で考えてくださっているのかなと読みながら疑問というかイメージがわいてこないんです。

21ページのところに、多様な媒体を活用した丁寧かつ、積極的な情報提供を行うとともに、第5章の「基本的事項」を基に市民や団体などへのアンケート調査等の開催などによる、幅広い世代の意見聴収を十分に行うなど、市民などのニーズ把握を丁寧に進めながら基本構想を策定します。

会館の使用だけでなく、日常から市民が使えるような大事なことを書いてくださっているので、それを目指すなら、中身はどうなんだろう。

委員が言われた平日でも活用できる日常的に活用できる、そういう風な発想が先に出てくるのか、予算なのか、土地なのか確認させていただきたいなと思いつつ、今日、参加させていただきました。

○会長

前回、公共施設全体最適化計画の中で3割減が一般的に言われていて、この施設だけでなく全体でというお話をさせていただいて、それは皆さんに議論いただいたんですけども。

どうも、この作りからするとここも、3割減じゃないのっていう風な見方をして、その予算制約の中で基本構想を作るのかっていう話になるかと、多分そういったご心配だと思います。

○事務局

ご指摘は当然だと思うんですけど、はじめのところでは、こういった考えに基づいて、縮減を目指しますということなんですけど、公共施設全体の計画の中で30%を目指すというものであって、この施設だけで目指すという考えではございませんけれど、公共施設計画の全体の中で謳っているものなのでここでも書かせていただいております。その中で加茂委員がおっしゃるような施設の規模、

数字的な根拠をいただいておりますが、事務局としましては、人口が少ないからこんな規模でしか建てられませんというのではないという風に理解しています。地域の実情に応じたホール規模であるはずだと認識しておりますので、基本構想の中でご利用される実績を基にどのくらいの規模がふさわしいのかというところは、今後、基本構想の中で絞られていくものだと理解しておりますので、必ずしも、高砂市の人口がどんどん減っていく中で、その規模に応じた小さい規模のものしか建てられませんよという考え方ではないということだけお伝えしておこうかなと思います。

○会長  
よろしいでしょうか

○委員  
1ページのね、説明くださった市民の創造的な活動と交流の拠点として、また、多様な文化資源を未来につなぐ文化拠点として、が一番の目的だと思うのでそこを十分に考えていただいてどんな部屋があって、ステージがあってとか難しいことを言っているのはわかっているんですが、でも、イメージができてしまって5年、10年で建て替えようかというものではないですから、その先を考えて前回言ったと思うんですけど、少人数の小学校だったら小さな体育館でいいのか、じゃないですよということです。そういう活用は、有名なオーケストラや団体に来てもらって市民の刺激になる施設であってほしいと思っています。じゃ、お金がかかるとなってしまうので、言っても申し訳ないと思っています。ですけど、仕方がないなあではなく、そこをよく工夫して検討してほしいなと思います。

○会長  
今後、基本構想を考えるにあたって皆さんのご意見をいただきますのでその際に、また、確認しながら進めていきたいと思っています。

○委員  
14ページご覧ください。  
アンケートの結果をグラフで出してくださっています。多いのは何だろうと見ると、情報発信、開催や参加、子供への教育や市民への啓発活動、観光や商品開発など産業との連携になっています。情報発信というところが重要になっているんだなと思いました。  
冒頭、インターネットを活用されたとか、色んな高校に声をかけられたとかありましたが、そういうところで一緒に、協力していきたいです。

○会長  
ありがとうございます。市民の建物であります。啓発や情報の発信は重要だと思います。その際には、市からの一方的な発信ではなく様々な団体、例えば町内会等と一緒に活動すればいいんだろうと思います。

○事務局  
文化自体が大きく変わっていく中で、施設だけでなく行政もその変化に乗り切れていない部分もあります。文化っていうところが広くて、どこまでが文化なんだっていうところもございますけれども、ここでのご意見も頂きながら一緒に進めて頂けたら、助かります。  
よろしく申し上げます。

○会長  
ほかにご意見ありますか。

○委員  
効率よく勧めるのは素晴らしいと思いますが、ホールに特徴がないと人は集まってきてくれません。演奏する者にとっては、残響が絶対必要で加東市のコスミックホールは残響が2秒くらいあるホール

ですから、木管のコンクールが何十年もされています。このホールですが、わざわざそのホールを借りて録音をするプロの演奏者もいるくらいで、それだけ素晴らしいホールです。

それから、アラバスクホールも、優良ホール100選に選ばれて、決して大きくないですが空席で残響が1.9秒くらい、人が入ったら1.7秒くらいあって、演奏する者にとっては、響きはとても大事なものです。可動式の椅子、高齢者の方にすればとても大変なもので、下から上がっていかないと真ん中に入っていけない、それとトイレに行きたいとき、すいませんと出ていかななくてはならない、演奏しているときにドッドッドというすごい音が聞こえたりする、とても悲しい感じがします。あそこは、元々、講演したりすることがメインのホールになると思いますので、演奏しても別に反響があるわけではなく全部、声も横に流れていきます。上にも飛んでいかない。中々難しいところなんです。

小野のエクラホールは、500席くらいのホールでそんなに大きくないホールで入ったところにガラス張りのフロアがあって2、3段の段があって、そこで2週間に一度くらい若いグループが演奏活動していて、11時から12時くらいの間で、そこに市民の人が聞きに来たり、施設の障害のある方たちが車いすなどで来られたりして、皆さんその演奏をとても楽しみに来られていてすごい稼働率だなと思っています。その横には、軽くランチができるお店があり、そのホールは本当にみんなが集える日が月に2回くらいあり、皆さん、又エクラでねと帰ってらっしゃる様子を見るとこういう風なホールがいいんじゃないかと思っています。

高砂の方にもみんなに愛されるホールになるんじゃないかともいつも思っています。

だから、ホールの質はとっても大事だと思いました。

でないと、みんな集まってこないし、いい演奏家も来てくださいません。オーケストラを呼ぶ必要はありませんが、アンサンブルでも来てくれたら、皆さん聞きに来てくださると思うので質のいいものを作ってほしいです。

○会長

貴重なご意見だと思います。どういう特徴を持たせるのかということもあって、どんな特徴を持たせるのか、一つ課題だと思います。先ほど、音響にこだわったホールにするのか、市民が集いやすいホールにするのか他のホールも参考にしたらいいのでは。

○委員

皆さんが言われたことが自分の意見と合致しているのでそんなに多くはないんですが、病院の建て替えから新しい施設の建築まで空白時間っていうところは、市民の方がどういう風に文化に接することができるのかなというところで、なるべく空白期間が短くなるよう構想を立ててもらってスムーズな移行に努めてほしいです。

○会長

ありがとうございました。本当に貴重な意見で大人からすると4年間、子供からすると多感な時期の4年間になるのでなるべく早く済むよう、お願いします。  
他に何かありませんか。

○委員

中身も全くホールと他にお部屋があるのかも決まっていない状態なんですよね。

多目的ホール、中途半端な施設ではなく、特徴のある施設を作ってほしいと思っています。

現文化会館がいつまで使えるのかというのが一番気になるところで、工事が始まる直前まで使わせてほしいと思っています。

ホールに関しては色々希望もあるので又、ご連絡します。

活動場所が空白期間中なくなるので、様々な文化団体の士気が下がり、縮小したりしないか心配しています。

○会長

ありがとうございました。中身に関してはこれからの議論になります。

それから、いつまで文化会館が使えるのかということに関しては、令和10年10月くらいまで使え

る感じですか。

#### ○事務局

文化会館を利用されている方にとっては非常に大きな問題だと思えます。あくまでも事業スケジュールでは、令和10年度末まで確実に使えるのではないかと考えています。病院ありきではないですが、一応はこういう予定で出しておりますけど、確実に年度末まで、例えば2月、3月まで使いきれるとは言い切れないですが、目度としては令和10年度末を予定しています。

#### ○委員

先ほど、委員の話にありましたが、空白期間、大人はどうにでもできるがこれから、中学などは地域展開があって、活動していたら発表の場が欲しいとなったときに、私も、音楽をやってるものですから、大きなホールでやりたいなという思いが出てきます。文化会館が次、使えるようになるまでの空白期間が長ければ長いほど、その期間の子供たちはいったい、どこで何をすればいいのかという話になってきて、せっかく楽しく演奏活動や色んなことをやってる期間に、極端な言い方をすれば、他市町でそういう場を持たなければならなくなってしまうときに、せっかく市の中でやれることを他市町でやらないといけない、例え、援助があったとしても、やっぱり、市で高砂市民として高砂市内で活動をしているものとしては、高砂市で高砂市民の方にとか、そういう部分があると思うので、そういうところも考えていただきながら、できるだけ早く、そういった施設が出来たらなあと思えます。

#### ○会長

ありがとうございます皆様からご意見をいただきましたが、これだけは言いたいという方がいらっしやいましたら。

そうしましたら、時間をオーバーしてしまい、申し訳ありません。

皆さんから、大変貴重なご意見をいただきました。

これからまた、検討にあたってこういったご意見を活かしながら進めてまいりたいと思いますので、先ほど、スケジュールのお話がありましたけれども、皆さん、お忙しいとは思いますがご理解をいただきますよう、お願い申し上げます。

今後のスケジュールに関しては、先ほど、連絡があった通りですので、令和8年度につきましては、4回の開催で、1回目が6月頃に終わりは翌年の2月ということでした。

以上でございます。

本日の議事はすべて終了ということで、進行を事務局へお返ししたいと思います。

#### ○事務局

本日は、大変熱心なご審議を賜り、ありがとうございます。

閉会にあたりまして、藤村副会長からご挨拶をお願いします。

#### ○委員

閉会ということで、早々に行きたいと思うんですけども、先ほど、このプリントで背景と目的で延べ床面積30%減を目標とした施設整備と謳っている。あんまり、コンセプトは変えないほうが良いと思えます。

厳しいようですが、事務局が「検討します。」と言っているが、国会だと検討します＝やらない、になるので、市でせっかく集まっているので、本音でやる、検討する、当たってみるとか、現場主義で、進捗する方向でやる必要があるかなと思えますので、よろしく願いいたします。

これで終わります。寒い中、ご苦労様でした。

#### ○事務局

ありがとうございます。それでは、これにて閉会致します。

どうも、ありがとうございます。